

＜2019年度の主な事業計画＞

新年度は、経常収益アップを最重点課題として新規事業に取り組んでいく。

▽目玉は、大宅文庫の応援団組織づくり。大宅文庫パトロネージュ（支援）の名称で、法人、個人の参加を募り、支援金を安定経営の基盤とする。デヴィ夫人に代表就任を依頼し、了解をもらっている。（詳細は報告2号議案）

▽収蔵雑誌80万冊が秘める“お宝情報”発掘を目指し、「雑誌文化研究会」を、大学教授などの研究者13人と共同で立ち上げる。収蔵雑誌をフル活用して研究論文などを発表、文庫の資料力の魅力を発信する。共同研究としては、多角的な視点で収蔵雑誌の有効性をまとめ、「大宅文庫解体新書」「収蔵雑誌解体新書」などのタイトルで、出版も検討している。

この活動成果が発信されると、各分野の研究者からの文庫利用が増え、さらにはWeb OYA-bunko 教育版普及への好影響が期待できる。

▽冊子体目録「大宅壮一文庫 雑誌記事人物索引」は、2019年度も引き続き刊行する。今回は、2018年版と2011年版、2010年版の3年分を予定。これまでに、2017年版～2012年版の6セットがオンデマンド出版で発売されており、最初に刊行した2016年版～2014年版は、情報提供料として、520万円の収入となっている。

▽文庫の収蔵雑誌目録を電子データ化し、新年度から公開する。現在出版されている継続雑誌788誌の入力作業が終了したので、「情報館」OPAC サービスを利用して、ホームページからアクセスできるようにする。

休刊・廃刊となった非継続雑誌（約1万1900誌）のデータ入力、今後2年間をかけて終了させ、逐次公開する予定にしている。

収蔵雑誌目録は、これまで手書き台帳で管理しており、利用者からは、電子データでの閲覧希望が寄せられていた。

◆2019年度の事業計画

(1) 資料の収集拡充

- ①図書＝雑誌及びノンフィクション関係書籍収集のほかに、新たな雑誌等の拡充を図る。
- ②雑誌記事索引＝雑誌記事索引データベースは、「雑誌記事索引ウェブ検索サービス」として利用され、高い評価を受けている。この索引データの充実に全力を挙げる。

(2) 雑誌記事索引データベースの普及促進

- ①記事検索・閲覧サービス＝来館者が当館所蔵の雑誌記事索引を、検索端末で検索し、雑誌閲覧できる体制を常備する。
- ②教育機関版と公立図書館版の普及促進＝教育機関や公立図書館で、雑誌記事検索データベースの Web OYA-bunko が活用されている。一層の普及促進を図るため、利用していない全国の公立図書館や教育機関にレター作戦を展開する。
- ③会員版の雑誌記事索引 Web サービスの拡充＝賛助会員以外も Web サービスが利用できるように、新たに「Web 会員」制度を設け、法人と個人会員を募る。

(3) 雑誌記事複写サービス

- ①来館者への複写サービス＝来館者に対して、著作権法の範囲内で所蔵雑誌の記事複写サービスを行う。
- ②記事複写資料のファクシミリ送信サービス＝賛助会員、Web 会員に対して、所蔵雑誌の記事を複写し、ファクシミリ送信をするサービスを行う。

(4) 寄付の呼びかけ

- ①大宅文庫パトロネージュ(支援)＝テレビで活躍するデヴィ夫人を代表とした大宅文庫支援組織を結成。法人、個人の参加を募り、参加者からの寄付(支援金)で、経営基盤の強化を図る。
- ②クラウドファンディング募集＝クラウドファンディング運営会社との協力で、全国から寄付を募る。

③賛助会員加入と寄付の呼びかけ＝法人、個人に対して、DMやホームページなどで、賛助会員加入や寄付の要請を進める。

(5) 雑誌記事人物索引刊行と所蔵雑誌目録刊行作業

①冊子体記事索引目録「大宅壮一文庫・雑誌記事人物索引」の2018年、2011年、2010年版を、オンデマンド方式で刊行する。冊子体記事人物索引目録は、2017年～2012年版の6年分を、18年に刊行し、順調な販売実績を上げている。

②大宅壮一文庫創立50年(2020年)記念として、所蔵雑誌目録刊行(皓星社発行)を企画し、データ入力作業を進める。

さらに、既に入力済みの継続雑誌788誌分の所蔵目録を、「情報館」OPACサービスで公開し、ホームページから検索できるようにする。

(6) 雑誌文化研究会の創立

①大学教授ら13人のメンバーで発足。会長は九州大学名誉教授の有馬学氏。大宅文庫収蔵雑誌を使つてのグループ・個人研究を進め、学会などで発表する。また「大宅文庫解体新書」「収蔵雑誌解体新書」などのタイトルで、収蔵雑誌の魅力やお宝情報などの満載した紹介本刊行を検討する。

(7) 什器の更新

①検索室、閲覧室の椅子は、新館建設時(1985年)に購入。導入から34年が経過し、脚部のゆがみや座面に亀裂などが入るなどの劣化が激しい。事務室の椅子も導入から20年以上も経過し、痛みが激しい。この検索室、閲覧室、事務室の計130脚を新しくする。

②2階の事務作業室に設置している卓上型のファックス機6台を、新しい機器に差し替える。このファックス機は、利用者から依頼の雑誌記事コピー送信に使用している、いわば文庫の心臓部。導入から13～14年経過し、劣化が激しい。

(8) 埼玉越生分館の事業

①大宅壮一関連資料を展示、公開する。原則として、1か月に1日開館する。